IAM e-Journal 第 4 号
2012 年 1 月 15 日発行
特定非営利活動法人アジア近代化研究所（IAM）

窮すれば通ず
―中国西部地域における農業観光開発の自助努力の一例―

陳　　波
アジア近代化研究所研究員、中央大学経済学部助教

はじめに

地域経済格差を是正するため，2000 年以降 3 つの開発戦略が相次いで中国政府に提起された．すなわち，①西部大開発（2000.3），②東北振興（2002.10）及び③中部崛起（2005.3）である．また，1980 年代に始まった「郷村観光」は農村の新たな産業となり，三農問題の 1 つの解決手段となる可能性を示した．しかし，インフラ整備の遅れた西部地域の農村は，観光業を興すと同時に，多くの場合環境破壊も伴ってきた．果たして 21 世紀以降の西部の農村観光業の開発は，環境保全との両立が可能であろうか．西部地域は経済発展のためいかような努力をしているだろうか．ここでは，西部大開発の「竜の頭」と言われている重慶市に目を向け，当市の全国レベルの貧困県である潼南県の観光開発を概観することを通じ，中西部地域の農業観光開発における状況・自助努力を窺う．

1．調査対象地域の概要

潼南県は四川盆地の中部，重慶市の北西部の最先端に位置する．東は歴史遺跡釣魚城を有する合川市及び四川省の武勝県に面し，南は銅梁や仏教石窟の世界遺産を有する大足県に面しており，西は四川省の安岳県・遂寧市と接し，北は四川省の蓬渓・南充と隣接する（図1.1及び図1.2を参照）．潼南県は四川省と重慶市の東西南北交通の合流地で成渝経済区の奥地の中心であり，四川の最も多くの県・市と隣接している重慶市の北西の入り口である．ゆえに，潼南県は対外（他省）開放の重要な門戸であり，将来重慶市における川渝提携地域の自然地理と交通要塞の中心都市になる可能性がある．

潼南県は盆地浅丘地域に属する．天然ガスの貯蔵量は300億立方mとされる．涪江と瓊江という河川が県境を横切る．気候は温暖で，四季の移り変わりがはっきりしている．年平均気温は17.9℃，年平均降雨量は990㎜．海抜高度は300－450mで，大多数の地形の相対高度は50－100mである．平坦な空き地が多い．沖積平野・盆地が多く，水稲，小麦，油菜の成長に適しているし，傾斜地も多い，その畑はサツマイモ，トウモロコシの栽培に適している．米がよくとれる肥沃で豊かな土地である．このため，潼南県政府は「全国の糧食・赤身用豚肉，黄桃の生産基地」の育成を目指している．

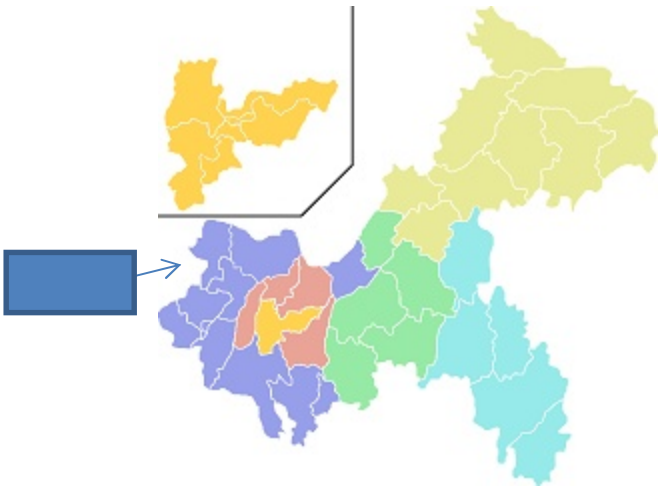
潼南県（373年に建制興県）は1914年に設置され，地名は潼川府の南に位置したことより命名されたという．この年に潼南県は初めて人口統計調査を行い，その人口は432,260人であった．1949年の新中国建国まで，人口はずっと40万人前後であった．建国後，3回にわたって人口センサスを行い，1953年には478,927人，1964年に563,609人，1981年に

778,710人であった．1998年の総人口89．91万人うち非農業人口は6.96万人だったが（8%足らず），2002年になると，総人口は90.43万人うち非農業人口は9.46万人だった（14.4%），非農業人口はより速いスピードで増加しているが，農業人口は圧倒的に多いことが容易に分かる．現在（2010年）総人口は95万人である．総面積は1,594平方km，行政区画として下部に2街道，20郷鎮（17鎮，3郷）[1]，282行政村，19居民委員会を管轄している（沿革：2002年に9郷22鎮283村21居委会．2006年に郷鎮の合併・調整を行い，現規模に

図 1.1　重慶市の位置

重慶市地図

図 1.2　潼南県の位置



中華人民共和国地図

図1.1出所：http://www.togenkyo.net/modules/area/43.html

図1.2出所：http://en.wikipedia.org/wiki/List_of_administrative_divisions_of_Chongqingに基づき筆者加筆）．

1949年12月5日（新中国の建国日は同年10月1日），潼南が解放されたのち，川北行署遂寧専区（1950年），綿陽行署（1958年に遂寧専区が撤廃），江津地区（1976年，1981年永川地区へ改名），重慶市（1982年）に従属してきた．1997年重慶市は直轄市に昇格した後も潼南の従属関係を変えていない．民族の構成として，漢族，回族，チベット族，苗族，彝族，壮族，布依族，満族，侗族，瑶族等29の民族がいる．なかでは，漢民族が総人口の99.9%を占め，28の非漢民族（少数民族）は総人口のわずか0.1%を占めている．

2　潼南県の観光戦略及びその展開

① 農業発展戦略

② 潼南県は著名人ゆかりの地（楊闇公・楊尚昆，道教至尊陳摶祖先の故郷）でありながら，工業がほとんど皆無に等しく，周囲でも最も貧しい農業県である．そのため，常

[1] 具体的に，県人民政府駐在地は桂林街道である．両街道弁事処（事務所）は梓潼，桂林である．17 鎮は，双江，花岩，柏梓，崇龕，古渓，宝龍，玉渓，群力，米心，上和，龍形，塘坝，太安，新勝，小渡，臥佛，五桂である．3 郷は，田家，別口，寿橋である．

に財政負担と見られ，行政改革時における地域の統合等の局面では不利になる．著名人の人脈を利用して地域経済の発展を図ろうとしたが，失敗に終わった．そもそも「反右派闘争」や「文化大革命」時期から，「造反」や「無情的革命」に影響され，著名人の人脈を生かせなかった[2]．

潼南県は数十年にわたって，工業の建設に方策を尽くしてきた．潼南絲（絹糸）廠・綢廠（薄い絹織物を生産する），潼南太安缶詰工場，潼南化学肥料工場等を作り上げた．潼南化学肥料工場は潼南県民一人ずつから借金して作られたものであるが，農業県潼南の市場需要を満たし，現存する唯一の（規模的）官製企業である．潼南太安缶詰工場が倒産しそうになった（1980 年代）時に楊尚昆（軍の副主席・国家主席）の支持を得て軍の特需品として生産することになり，10 数年の存続ができたが，21 世紀に入る寸前に倒産してしまった．潼南絲廠・綢廠は 30 年近くにわたって県の役所所在地の重要な工業として存在したが，21 世紀に入って間もなく，倒産に追い詰められたのである．

農業しか残っていない潼南県は 21 世紀にどのように発展していくのか．「潼南は工業もなく，サービス業も遅れているし，農業も非常に原始的なやり方しかないので，観光業を起こすなんて考えられないことであるし，ツーリストが潼南に来たらいったい何を見るのか?！」（当地住民）と 20 世紀までの潼南県民は農業観光で興業することは不可能だと認識していた．1998 年の「華夏郷村観光」キャンペーンは全国的に展開されたが，潼南に大きな影響を与えなかった．

長所をもって短所を補うべきだと悟ったのは，工業一点張りで大失敗した 21 世紀に入った直後である．西部大開発が正式に決定されたのち，国際連合が 2002 年を国際エコ・ツーリズム年と宣言した．2003 年に中国政府は「多めに与え，少なめに取り，規制を緩めよ」という農村政策方針を定め，「人と自然との調和のとれた発展」を含む科学発展観を提起した．自然を再生させ，自然が残されている農村を観光地にすることは可能であるという

---

[2] 経済発展と民風に関わる逸話として楊尚昆国家主席の話がある．“文化大革命”時に鄧小平は四川省広安へ，楊尚昆は四川省潼南（当時）へと各々の故郷に下放され，当地の人民の再教育・批判を受けた．嵐のようになった“文化大革命”は徐々に「武力を使わず」という最初の「文明的闘争」を破り，再教育対象や批判の対象に暴力を振る舞うようになった．楊尚昆は潼南の批判会で責められ，救おうとする潼南住民もいず，楊尚昆は故郷に対して失望感や怒りを抱くようになったという．一方，鄧小平は広安で責められると，多くの当地住民は彼を庇ったりした．怒った紅衛兵が鄧小平の祖先の墓を掘ろう（当時「迷信を破る」等スローガンが盛んに叫ばれた）とした時に，自分の政治生命も顧みずに，広安の武装部長は重機関銃を持って墓を守った．故郷での異なった遭遇の鄧小平と楊尚昆は後に故郷に対する態度も違ってくる．鄧小平の故郷広安の経済建設は国家に多く支持され，急速に発展した．一方，潼南の役所官僚は楊尚昆を訪れ，潼南の発展の支持を求めたが，「僕は全国の主席であり，潼南だけの主席ではない」ときっぱりと断られたしまった．天安門事件以降，楊尚昆は鄧小平と共に，徐々に重要なポストから離れ，精神的と時間的余裕が出てきたか，数回にわたって故郷へ帰るようになった．故郷の発展の遅れを目にあたりにし，「潼南振興」というスローガンをかかげ，助言・助力するようになった．現在，潼南住民は楊尚昆の境遇に同情的である．早くから潼南を応援しなかった楊尚昆にではなく，「彼をいじめた造反派が悪い．彼を助けなかった潼南はモラルが最低で，天罰を受け，早く発展のチャンスが得られなかった」と造反派や潼南人のモラルの低さに怒っているのが普通である．さらに，楊尚昆はかつて中共中央弁公庁主任であったため，現任重慶市委書記薄熙来（共産党高級官僚二世）の父親との関係がよく，困難（食べ物もあまりなかった）時に楊家族に大変世話になったためか，薄熙来は子供の頃から楊氏と親しいという．薄氏は重慶市の書記を務めると，すぐにも自分は潼南に責任を負うと決めた（官僚は下部組織の一つの地域を選び，重点的に責任を分担するという組織のルールがある）．それは楊氏への恩返しかもしれないと潼南住民の中で噂になっている．とどのつまり，潼南の発展は多かれ少なかれ，中華人民共和国第四代国家主席の楊尚昆とのつながりがあるとされている．

強いメッセージを農村社会に送った．20 世紀には沈黙していた潼南県はこれらの国内外の情勢に乗って，2, 3 年の醸成期を経て，ようやく 2004 年から正式に動き出したのである．

2004 年，潼南県は農業発展のポイントを 3 項目に絞った．すなわち，第 1 に“全国無規定動物疫病安全区”を築き，潼南県を全重慶市の赤肉用豚という高品質商品の生産大県にすること，第 2 に“全国無公害農産品（野菜）生産モデル県”に指定されるように全力を尽くして“双十工程”（農業産業化七個“十万工程”及十個強鎮工程）を実施する．重点的にいくつかの規模の大きい，効率の高い，特色のある農産品生産基地を建設し，潼南を重慶近郊の現代化農業展示区と緑色産品基地県に築き上げることに努力すること，第 3 に農副産品である．“農業を巡って工業を興し，工業をよくして農業を促進する”という発展構想に基づき，2004 年を“農副産品加工年”に定め，農業をもって工業を推進し，工業をもって農業に反哺し，グリーンエコ農業“百花園”と野菜加工“特色園区”を建設し，渝西緑色産品大県の建設プロセスを加速させる．このように，2004 年に，潼南県は長所を活かし，農業を中心とした発展戦略を打ち出したのである．

② 農業観光戦略

潼南県が農業を中心とした発展戦略を打ち出した翌年から，「緑色蔬菜の潼南」という名が迅速に広がり，間もなく潼南県は「中国西部緑色菜都（エコ野菜生産の都）」と呼ばれるようになった．農業を中心とする発展戦略の成功を加え，2005 年新農村建設の再提起を受け，2004 年の農業発展戦略に基づき，潼南県は農業発展戦略の拡大として農業観光戦略を明確に打ち出した．その基本内容は以下のように要約することができる．つまり，潼南県は総合的に紅・古・緑という「三色」観光資源の開発をねらい，伝統資源の利用と新しい資源の開発を同時に進行させることを目指すようになった．具体的に言うと，紅色[3]は楊闇公烈士＝中国共産党四川省第一任書記・楊尚昆＝第四代国家主席（両兄弟）陵園及び楊闇公旧居が中心，古色は双江古鎮及び大仏寺が中心，緑色[4]は桂林蔬菜基地及び東昇茶海を中心にする観光スポットを絞った観光業の開発を目指すことである（表 1.1 を参照）．

中国国家旅遊局は 10 の農村観光テーマを提示した．それは，農村リゾート（農家楽），周辺観光拠点，観光都市建設，伝統文化，民族文化，特産品，近代農業，農業観光，環境

[3] 2004 年初め，新中国建国 55 周年・長征 70 周年の年に河南省鄭州市で開催された全国旅遊（観光）工作会議において，紅色旅遊（レッド・ツーリズム）についての「鄭州宣言」が採択された．同年 12 月，中国共産党中央弁公庁と国務院弁公庁が「紅色旅遊発展企劃綱要」を発表した．「綱要」による，レッド・ツーリズムの目的は愛国主義と革命伝統を広く教育し，民族精神を発揚，育成，民族の団結力を強化して革命老区の経済と社会を協調，発展させることである．レッド・ツーリズムの 6 つの目標は，観光客の増加（具体的には「綱要」前期の 2004 年から 2007 年までは 15%程度，後期の 2008 年から 2010 年までは 18%程度が目標数値），12 の「重点紅色旅遊区」の形成，30 のモデルコースの定着，100 大紅色観光地の建設と革命歴史遺産の整備・保護及び革命老区の経済発展である（舛谷研究室 http://masutani.biz/ 舛谷鋭（2009 年 7 月 20 日）「紅色旅遊（レッド・ツーリズム）発展計画」を参照）．

[4] 潼南県は四川盆地に属する浅い丘陵内陸地であるため，ブルー・ツーリズムより，グリーン・ツーリズムという表現がよく使われている．中国では，ブルー・ツーリズムとグリーン・ツーリズムは厳格に区別されずに，混ぜてエコ・ツーリズムという意味で使われている．

保護等及び紅色旅遊である．共産党政府が主導してきたレッド・ツーリズムは，愛国主義・革命史を教育し，民族精神の発揚だけでなく，革命老区の多くは経済発展の遅れた内陸地域であるため，革命老区の経済発展を促すことも目指している．言い換えれば，レッド・ツーリズムは農業観光と同じく，格差解消策と見られている．このように革命＝紅色遺産は従来の政治情報から経済効果への転換が図られ，ここには観光資源として地域（特に革命老区）発展を推し進めようとする政府の思慮が伺えられる．紅色旅遊（レッド・ツーリズム）は，主に革命老区を対象としている．革命老区は中国の西北・西南等西部地域に偏在している．西南地域に属する重慶はかつて四川省の一部であり，革命老区の範囲に入る

表 1.1　潼南県“三色”観光整備計画

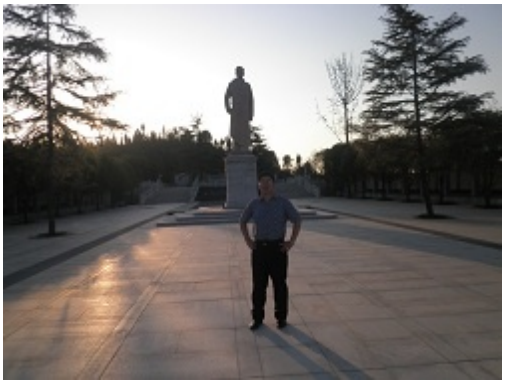
項目	重点整備内容
紅色	楊闇公烈士陵園・楊尚昆陵園・楊闇公旧居
古色	双江古鎮街道・大仏寺（大佛像に金めっきする）
緑色	桂林蔬菜基地・東昇茶海

出所：筆者作成

．当然として，紅色を有する潼南県はこのレッド・ツーリズムのブームに乗らなければならない．このため，まず革命烈士と共産党の要人であった楊闇公・楊尚昆両兄弟の陵園・旧居の修繕，整備が決定された（楊闇公烈士墓・楊尚昆陵園（2011 年 8 月 23 日撮影）写真を参照）。しかし，楊氏兄弟よりもっと有名で道家至尊陳摶老祖は共産党建党の千年前に生まれたために，共産党の一員ではないため，レッド・ツーリズムの追風に乗れなかった．

楊闇公烈士墓・楊尚昆陵園（2011 年 8 月 23 日撮影）

革命の長老朱徳が書き記した字句「楊闇公同志之墓」鄧小平等が書き記した字句「楊闇公烈士永垂不朽」



楊闇公彫像

楊尚昆陵園

陵園正面溝渠

楊尚昆彫像

紅色の次に，古色が出された．元々潼南県の大仏寺は現地の最も有名な古い仏教遺跡であったが，新中国が建国されてからマルクス主義だけを尊び，儒・仏・道等の信仰が徹底的に抑えられたため，大仏寺が一般的に保管・現状維持されてきたものの，大きな修繕・塗装はなされなかった．改革開放後，特に社会主義市場経済への転換後，マルクス主義の信仰が薄くなってきた趨勢を見極めたか，潼南県政府は大仏寺の主要な遺跡大仏像に全身メッキをかぶせることを決めた．また，レッド・ツーリズムの楊氏兄弟の旧居（双江鎮）の修繕と連動して双江古鎮街道の整備が必要となった．それは楊尚昆の逝去以降迅速に動き出し，数年前に整備がほぼ完成した．

一方，2008 年 3 月に崇龕鎮を中心にする菜の花祭り（次項を参照）が開催されたのち，崇龕鎮は新しい観光地として観光スポットを拡大していくため，道教至尊陳摶の伝説関連観光スポットを築き上げると同時に，崇龕古鎮の整備も必要となった（太極古鎮工事を始める式典（2011 年 8 月 20 日撮影）写真を参照）．崇龕古鎮を整備するには，資金が必要である．そのため，県政府は「投資者と建設者は受益者になる」原則を制定し，企業の参入を誘致した[5]．また，群衆の参与を呼びかけ，当地住民の積極的参与を要請した．さらに，県財政

[5] 潼南県政府は重慶市の中方旅遊景区管理有限公司（以下，中方公司）と提携した．県政府は主にインフラ建設に責任を負う，中方公司は主に観光宣伝のプロモーション，マーク・標識の制作及び風景区の活動・イベント項目に責任を負う．入場券の収入は県政府と中方公司の間で 4：6 に分ける．風景区の

も資金を出して周辺のインフラ整備を支援した[6]. レッド・ツーリズムと古色観光の整備は，いずれも農業と直接関わりがなく，共産党の革命史や遺跡を利用した伝統的な観光形式になる．しかし，あまりにも単調過ぎる著名人の墓・陵園及び古鎮は全国どころか，地域周辺に比べても優位性がなく,観光者を惹きつけず,経済効果をほとんどもたらさなかった．そこで，潼南県は農業を活かして新しい観光資源を創造しようとして，緑色の観光開発を策定した．最初に，緑色の観光は桂林蔬菜基地・東昇茶海を築き上げることと定め，間もなく次項で見る「三色観光」へと広げた．

太極古鎮工事を始める式典（2011 年 8 月 20 日撮影）

太極古鎮開工（操業）儀式（崇龕鎮）

当地住民自ら組織した祝いチーム出陣

③　緑色の発展――多彩な花経済の追求

平和・安定こそ，経済建設の可能性があるし，観光の興隆もできる．潼南県にとって，近年における国家全体のマクロの平和･安定及び発展的な環境はかなり重要な意味を持つ。自身の建設と発展の可能性をもたらしたからである．2006 年の「中国郷村観光年」，2007 年の「和諧郷村観光」といった国家や国家観光局のイベントが相次いで行われた．潼南県の観光戦略もこの時勢に乗って進んでいった．

「三色」観光戦略のうちの緑色観光は，2006 年にさらに具体化され，緑に限定されず，カラフル・ツーリズム設計に向かったのである．2004 年に定められた農業発展戦略は迅速に成功を収め，潼南県は重慶市ないし西部地域の「緑の蔬菜基地（エコファーマー基地）」と称されるようになった．鼓舞された潼南県民は 2006 年の「中国郷村観光年」に緑色観光を改め，次の 2007 年の「和諧郷村観光」の行動計画を練ったのである．その計画は実に短期間で大成功を収めるような野心的な計画である．

活動・イベントでは，中方公司は損益の責任を自ら負うと定められた．観光産業の運営は市場運営へと転換し，観光会社を取り入れて具体的な運営・操業をプロの企業に任せるようになったのである．

[6] 実際，県財政は 2009-2010 年の 2 年間に崇龕鎮に 5000 万元（約 6.5 億円）を投入し，自動車道・歩道を整備した．相乗効果を追求するため，県財政は大佛寺に，再び 1000 万元を投じ，園を封じて徹底修繕する．また，楊尚昆故里・双江古鎮にも再び 1000 万元を投じ，環境整備や道路，駐車場等の施設を建設した（第 2 回工作報告による）．

それは「多彩な花経済」の追求という計画である．具体的に，①毎年 3 月に油菜の花祭りを開催し，観光スポットは“金色”（黄色）を中心にすること．②5 月と 11 月に蔬菜の祭りを行い，“緑色”を特色とする風景を創ること．③8 月には紅高粱の祭りを開き，“赤色”（紅色）を主調にして観光客を引き付けること，である．

早いものが勝つ．県の決定を受け，一番早く動き出したのは崇龕鎮政府である．崇龕鎮政府は自鎮の歴史沿革・社会状況・交通状況・資源状況をまとめた上で，「今後 5 カ年工作規劃」（以下「規劃」）[7]を迅速に県政府に提出した．「規劃」の中で，崇龕鎮政府は今後 5 年内における仕事の位置づけを明確に「現代農業と生態＝エコ旅遊（観光）の高度融合した特色のある経済大鎮を創ること」とし，「和諧の構築・環境保護に重点を置く」というタイトルの第 7 条に，「全面的に科学発展観の貫徹・執行をし，崇龕における和諧歩調の構築を速める．発展と同時に，環境保護を遂行し，特に水資源の保護に力を入れ，山紫水明の良好的環境を創り，全力を尽くして崇龕における発展の『名刺』造りに努め，人と自然の調和の取れた発展及び持続可能な発展を実現させる」と定めたのである．

図 1.3　瓊江河が横切る崇龕鎮

出所：http://baike.baidu.com/view/451120.htm

崇龕鎮は，潼南県中心部から北西へ 30km に位置する．東は双江に，南は柏梓，西は四川省安岳県に，北は四川省の遂寧市に隣接する．鎮政府の駐在地は獅泉上路 18 号である．面積は 87.6 平方 km，耕地面積 45,728 畝（水田 23,074 畝，畑 22,654 畝．1 畝　6.667 アール，1 ヘクタール＝15 畝で換算）に，12,548 世帯，52,371 人（非農人口 1809 人）が暮らす農村である． 鎮は 16 の行政村（塊地村 9 個，塊地面積は 10，800 畝．溝地村 7 個），1 の社区居民委員会，140 の村民小組，3 つの居民小組を所轄している．鎮の定期市の面積は 1.5 平方 km，小城鎮は既に 3 つの街路（大通り）と 8 つの道路を建設していて，常住人口 10,000 人余りである．2006 年に，鎮の生産総額は 3 億 505 万元に，糧食の生産量は 18,345 トンに，農民 1 人当たり純収入は 2,766 元に達した．社会政治は安定し，人々は平穏に暮している．

[7] 崇龕鎮「今後 5 カ年工作規劃」http://baike.baidu.com/view/451120.htm（2011 年 6 月 21 日アクセス）を参照．

崇龕鎮域内には合わせて 5 つの主要交通道路がある．それらは崇柏（柏梓）路，崇双（双江）路，崇大（遂寧市大安鎮）路，崇姚（安岳県姚市鎮）路，崇龍（安岳県龍台鎮）路である．崇柏路は県級主要幹線道路であり，崇龕鎮内の延長は 9.6km である．所轄される 16 の行政村には全て村級道路が通じている．農産物については，主に水稲，小麦，サツマイモ，蔬菜を豊富に産出する．また，蚕の繭，油菜，ピーナッツ，果物等を生産する[8]．県における油菜，緑色スッポン，レモン，蔬菜等の発展基地の 1 つである．

このように，インフラ整備と地理的条件の角度から，崇龕鎮は①重慶と四川省の辺境に位置し，辺境貿易が可能である．②交通インフラ整備ができているため，重慶の「1 時間経済圏」に融合していきやすい．③瓊江河が鎮を横切るので，沿瓊江河の沖積平地・盆地の面積が大きく，全鎮の耕地面積の 24%を占める．緑色食品の生態優位性を有し，緑色食品の生産基地ができ，緑色農業の発展が可能である．そこで，緑色観光スポットづくり，風景鑑賞，レジャー休暇を中心にするエコ観光も可能となる，といった利点を挙げることができる．

そもそも，崇龕鎮政府はすでに瓊江河沿岸の青崗村・白沙村・長寿村で油菜の統一栽培を 1－2 年前から始めて，生態農業観光基地を創ることを試みていたのである．「規劃」第 4 条では，「（新しい）項目を創り，主にエコ観光を登場させる」というタイトルで，「数年来我々は，船で瓊江河の旅，油菜の鑑賞，農村リゾート（農家楽）を主な内容とするエコ観光項目の普及を試してきた．それはためになり，一定程度の経験を蓄積した．今後，我々はこれらの基礎に基づき，正式に崇龕のエコ観光を代表する“菜の花祭り”を世に出す．市場化の運営を通じ，観光資源を活かし，当地の第二次と第三次産業の発展を引き出す」と，県政府に鎮の決心を見せた．崇龕鎮を油菜の花祭りの開催地として決めた．そして，2008 年 3 月に菜の花祭りが開催された（菜の花祭り（2011 年 3 月 16－18 日撮影）写真を参照）．

菜の花祭り（2011 年 3 月 16－18 日撮影）

一面に広がる菜の花の海

花の海の中を歩く

[8] 崇龕鎮は，農産物だけでなく，“七彩山鶏”と称されるキジや豚・羊・牛も含めた自給自足の生活や農家らしい家屋や庭等，自然に囲まれた農村生活を体験できることから，後述するように潼南県政府の支援の下で，積極的に郷村観光を進めている．

花の海の中に浮かぶ観景亭

瓊江河岸観光客を待っている船主と遊覧船

菜の花で編んだ太極図　ギネス記録申請中

瓊江河風景

100 種以上の珍奇な植物を植えている植物園

桜の一種

さらに，2008 年に菜の花祭りの開催成功後，その相乗効果を追求し，紅高粱の祭りも崇龕鎮を中心に開催するように決定され，熱い夏でも多彩な花を見ることができる．筆者は 2011 年 8 月に紅高粱の祭りの開催式に参加した（紅高粱の祭り開幕式（2011 年 8 月 20 日撮影）写真を参照）．初めの印象としては，春の菜の花祭りと比べると，真夏の中で紅高粱を見るために崇龕鎮に来る人数は春の三分の一ぐらいではないかと思う．しかし，三大火炉の一つとしての重慶地域の現実を考えれば，真夏時に気温は常に 40 度を超えているし，紅高粱の祭りはちょうど気温が 40－44℃の高温期でありながら，依然としてたくさんの観光客

がやってくるのは観光地づくりや観光客誘致の成功を認めざるを得ない.

紅高粱の祭り開幕式（2011 年 8 月 20 日撮影）

礼砲撃ち大砲 4 座

競輪が式典後行う

各地からやってきた応援団　気温は 43℃

太鼓陣

「向日葵は太陽に向かう」という文字

式典が終わりさっそく花を見に行く

向日葵の海

観光とビジネス　当地醸造の新たな名酒を吟味

3．観光戦略の成否

①　概況

潼南県の観光戦略及びその展開から見れば，最も大きな成功をおさめたのは多彩な花経済の追求である．前述したように，潼南県は 2004 年に農業観光発展戦略を定め，戦略の 1 つとして蔬菜基地やお茶の大量生産を目指した．2006 年にはこの緑色戦略を広げ，多彩な花経済を追求するようになり，その目標が郷・鎮村に伝えられ，実行していった．その中では，菜の花経済の追求に重点を置いた．崇龕鎮は 2007 年に菜の花を用いて観光地づくりの準備期に入り，2008 年 3 月から菜の花祭りを正式に開催した．2011 年までに計 4 回の菜の花祭りが開催された（表 3.1 を参照）．その目標は広義には蔬菜の栽培や紅高粱の栽培も含むが，ここでは油菜の栽培規模を述べる．2011 年 3 月現在まで，潼南全県における菜の花植栽面積は 30 万畝余り，崇龕鎮では 3.5 万畝余り栽培している．崇龕鎮では主に青崗村,白沙村,長寿村という 3 つの村に集中栽培して大きな観光風景区域となっている．毎年 3 月になると，崇龕鎮だけではなく，潼南県内の大地には緑色的菜都・彩色的世界の独特な魅力がふと目の前に現れる．

また,菜の花祭りの活動は,菜の花祭り自体と蔬菜購買会の 2 つに分けられる.例えば,2008 年の最初の開催では，菜の花祭りにおいては，大型演芸を始め，中国西部緑色菜都撮影競技会，万人署名・オリンピック祝福，農村美景レジャー観光等の内容を含んでいる．蔬菜購買会は，無公害蔬菜基地・リーダー企業の参観，企業誘致項目の紹介・推薦，蔬菜購買面談会，紹介・推薦する企業誘致項目の契約締結，蔬菜の展示即売会，千人鍋料理宴会等によって構成される．

菜の花祭りの開催によって，その観光スポットづくりを始め，広報・宣伝・イベント活動等は飲食・交通・道路インフラ整備・メディア等の多くの産業部門の発展を促進する．また,民居の改造は建築業･設計業界と連動し,これらの産業にビジネスチャンスを与え,発展の可能性をもたらすのである．ゆえに，菜の花祭りの開催における事前準備・開催・事後処理に伴って，工業・農業・サービス業に関わる多数の事業が発生し，産業の興隆を

もたらしている．菜の花祭りがあるため，スピルオーバー効果が発生し，三次産業の発展を促進しているのは明らかである．

潼南菜の花祭りは 2008 年から今まで 4 回開催され,「毎回は前回よりよくなり，潼南の雄渾・胆力・識見を明らかに示し，新しい潼南の魅力・風采を展示した」と潼南県政府ホームページの「潼南菜の花祭り毎回記事」欄が述べている．また，同欄では「潼南の歴史文化をさらに高め・掘り出し・広げるため，潼南におけるとりわけ恵まれている観光と蔬菜産品の優位性を発揮させるため，潼南の優良なエコ環境・人文環境・投資環境を展示するために，観光を舞台（基盤）にし，経済貿易を演じ（発展），広く友達を作り，更なる潼南の知名度を高め，潼南経済・社会のもっとよいもっと速い発展を促進する」と，観光を通じ，経済貿易等を発展させる県政府の意向を説明している．

さらに，菜の花祭り領導小組は「政府主導，市場主体，部門支持，群衆参与」(第 3 回工作総括 p.5)と運営方式を定め,「投資者と建設者は受益者になる」という原則に基づき，具体的な運営は企業に任せる．同時に，政府主導だけでなく，部門の支持を要請し，政府と各部門の協力役割を強化した．また，もう 1 つ最も重要なことを盛り込んだ．それは「群衆参与」ということである．当地住民（ないし鎮外県民）の積極的参与を意識し，呼び掛けを要請しているのである.結果として,風景区における具体的運営の参与許可を用いて，企業の投資を引き付け，潼南県の農業レジャー観光業の発展スピードを速めた．投資企業やプロの観光会社に具体的な運営・管理を任せる一方で，県政府は積極的に重慶市政府に関連する部門に政策・項目等の面の大きな支持を求めると同時に，県内における各レベルの部門と緊密な歩調を合わせ，協調運営を促し，菜の花祭りの成功を保証する．さらに，風景区の民衆は土地の流動化や，農家宅地の賃貸，個体経営，風景区でアルバイトをする等，菜の花祭りにおける活動に参加し，収入を増やした．このように「政府主導，企業運営，群衆参与」運営方式の下で展開される菜の花祭りは，成功への組織的な保障を備えたと言える．

② 実績

観光地づくりの効果を測るには，その実績を見なければならない．今のところ，潼南県の紅・古・緑三色の観光業における業績を全面的に計算・分析するための十分なデータは存在しないが，一部の観光地づくりの状況を見ることを通じ，潼南県の農業観光開発の基本状況をある程度把握することができるであろう．ここでは，菜の花祭りを例として潼南県の観光業開発の実績を測ってみる．

表3.1は「中国西部緑色菜都」と称されている潼南県の菜の花祭りにおける総合収入・観光客数・観光客人員構造を示したものである[9]．第１回の2008年における総合収入は1.44

[9] 資料「重慶潼南・中国西部緑色菜都第 2 回菜の花祭りの工作報告」は「第 1 回菜の花祭り開催期間中，崇龕鎮主要風景区の来客は延べ 19 万人余，双江古鎮や大仏寺等も同時に観光の高潮期を迎え，全県合わせて延べ 36 万人余である．旅遊業の直接収入は 3000 万元余，総合収入は 1.4 億元余を実現した．……今年は，主要風景区の来客は延べ 25 万人余で，他の風景区の延べ 20 万人余を帯同した」と記録して

億元（約20億円）である．以降，回を重ねるごとに前回比それぞれ25%，44.4%，38.5%増加している．平均約36%の増加率である．第4回の総合収入は第1回の2.5倍となった．総合収入とその前回比増加率から，菜の花祭りの発展が伺える．2010年における潼南全県のGDPは113億元で年平均成長率は13.2%であった（県長・羅建極「潼南県人民政府工作報告」2011年1月19日）．同じ2010年に開催された菜の花祭り第3回の総合収入は2.6億元で前年比増加率44.4%となっている．つまり，同年菜の花祭りの総合収入は全県のGDPの2.3%に相当し，その前年比増加率は全県のGDP年平均成長率をはるかに超え，3.4倍になっている．前年比平均増加率も全県の年平均成長率の2.7倍となる．新興観光業としてその最初の成長率が速いのは一般的だと考えても，やはり1つの菜の花祭りの総合収入が全県GDPの2.3%に相当することについては高く評価できると考える．

菜の花祭りの開催で，第1回目で延べ36万人の観光客を呼び込んだ．以降，45万人，76万人, 120万人と年々増加していく. 前回比観光客の増加率はそれぞれ25%, 68.9%, 57.9%である．4回平均して増加率は47.3%となり，5割近くになっている．中国内陸部の1つの貧困県における1つの鎮で，3，4年のうちにその祭りの観光客の総人数が120万人に上ることは，観光開発や観光客誘致の成功と認めざるを得ない．

表3.1 中国西部緑色菜都菜の花祭りにおける総合収入・観光客数・観光客人員構造

回数	総合収入	前回比増加率	観光客数（延べ）	前回比増加率	第 4 回観光客人員構造（前 3 回未統計）	
第 1 回	1.44 億	/	36 万人	/	潼南県住民	26.385%
第 2 回	1.80 億	25%	45 万人	25%	本県外の重慶市民	50.115%
第 3 回	2.6 億	44.4%	76 万人＊	68.9%	他省･市（主に四川）住民	23.495%
第 4 回	3.6 億	38.5%	120 万人＊＊	57.9%	外国人＊＊＊	0.005%

注：＊3 月 13 日の 1 日だけで延べ 16 万人の観光客が訪れたという．　＊＊3 月 12－13 日の 2 日間だけで延べ 20 万人余に上るという．＊＊＊外国人は重慶・四川の大学で留学中の日本・韓国人を中心で，欧米人はわずか数人で，合わせて 60 人ぐらいであった．

出所：総合収入・観光客数は，第 1－4 回「重慶潼南・中国西部緑色菜都菜花節工作執行方案」及び第 1－4 回「重慶潼南・中国西部緑色菜都菜花節総結」に基づき筆者作成．第 4 回観光客人員構造は「菜の花祭り工作小組」の統計データにより筆者が計算したものである．

前 3 回は観光客人員構成についての統計はないものの，第 4 回目のデータを元に筆者が計算すると，その内訳は，潼南県住民 26.385%，本県以外の重慶市民 50.115%，他省・

いるだけで，他の資料には旅遊業の直接収入や主要風景区と他の風景区の分けた来客の記録が全くない．このため，第 1 回の直接収入しか分からず，直接収入の比較ができない．また，崇龕鎮主要風景区の直接来客は第 1 回と第 2 回しかわからない．但し，この 2 回限りで，崇龕鎮の来客はそれぞれ 19÷36×100%　53%，25÷45×100%　56%であるため，崇龕鎮における菜の花祭りに直接参加した観光客は半分を超えていると考えて無難だろう．

市（主に四川）住民 3.495%，外国人 0.005%である．潼南県住民は 4 分の 1 強を占めている．本県を除いた重慶市民は半分を占めている．本県と合わせて，重慶市民が計 76.5%を占めている．つまり，観光客の 4 分の 3 強は重慶市民である．また，他省・市住民が 2 割超訪れている．辺境の向う側の四川人も多数訪れた．「重慶人・四川人以外の中国人は 5%ぐらいではないか」（県観光局副局長）という．やはり，潼南県を訪れるのは重慶・四川人が中心であり，他省・市の中国人は 5%ぐらいで，まだ少ない．今回の外国人観光客は 0.005%で，わずか 60 人ぐらいしかいない．それは日本・韓国・欧米人の留学生（四川・重慶の大学）である．このような意味で，菜の花祭りの観光人員構成においては，四川・重慶以外の中国人及び外国人の招致が重要な課題として残されている．

このように，観光人員構造などの問題を残すものの，菜の花祭りによってかなりの観光客を誘致でき，大きな経済効果が得られているのは明らかである．実際，経済面の効果に留まらず,「近年ライフスタイルの変化が大きい．観光によって都市と農村の触れ合いが深まっていく．農村の農民は都市住民に自然環境・農業・風景・伝統文化等の地域資源を見せ，都市住民は近代的・文明的な習慣・教養を農民に見せる．つまり，観光客都市住民の到来は農民の生活スタイルに知らず知らずのうちに影響を与えている」と周建華（県教育委員会弁公室主任）が言う．「以前，毎日『五講四美（体・語言・環境の清潔さを保つという全国に向ける宣伝スローガンの 1 つ，いろいろな壁に書かれている．特に学校で全面的に宣伝され，学生に暗誦させている)』と要求しても，効果が微々たるものであって，吸殻の投げ捨てや歩きながらたんを吐いたりしていたが（政府の宣伝欄に向かって数メートルの距離置きでツバを吐くことに競争していたグループさえいた)，菜の花祭りの開催後，そのような無教養なことをやる農民や農村学生が 1 人もいなくなったと断定できる」と陳聯文(県委党校常務副校長）が言う．「間違いなく，菜の花祭り開催以降，地元農民のマナーが年々と良くなり，向上し続けている．以前，外の人は誰もやってこないし，農民の盆地意識・保守意識は強かった．祭りによって世界が開かれて農民の視野が広くなり，地域資源の価値の確認ができたし，農民の誇りが高まった，郷土愛を深めた」と張興挙（県紀律検査委員会副書記）は言う．

菜の花祭りは，明らかに経済効果を始め，保守意識・ライフスタイルの変化，農民のマナーの向上, 農民の誇り・郷土愛の醸成・深化等の多くのスピルオーバー効果をもたらし，多方面にわたって大きな業績を成し遂げていると言える．

観光資源のさらなる活用のため，潼南県は県内のインフラ・交通整備を急速に推し進めている．つい最近，金佛大橋が開通され，双江方向から県城まで従来（自動車が）30 数分かかる遠回りを直進できるように変え，8 分ぐらいで到着できるようになった（金佛大橋開通式典（2011 年 8 月 20 日撮影）写真参照)．

金佛大橋開通式典（2011 年 8 月 20 日撮影）

銅鑼や太鼓の音が空まで響く

旗に不思議な図　外地から祝いに来た大衆

注目を集める盛大な伝統舞踊大型獅子舞

市・県指導者代表及び工事責任者　ひな壇に立つ

県長　金佛大橋の開通を宣言

警察やボランティアは秩序を維持

祝い礼砲の火薬煙舞い上がる

市・県指導者代表及び工事責任者　開通者に乗る

③　潼南県の変化

観光地としては無名であった重慶市潼南県の年間観光客は，2005 年までは 10 万人足らずだったが，2008 年 3 月の崇龕鎮の菜の花祭りの開催以降，2010 年には 250 万人以上の観光客が訪れるまでに変わった(県長･羅建極「潼南県人民政府工作報告 2011 年 1 月 19 日)．4～5 年というかなりの短期間に県城所在地の空き店舗は人があふれ魅力ある店に変わり，生活感あふれる賑やかな街となった．以前は重慶まで数時間かかっていたが，高速道路が建設されてからは 1 時間 15 分で到着でき，重慶市の「1 時間経済圏内」になった．毎年 3 月に開催される菜の花祭りの広報・宣伝として，ミス・コンテストをはじめ，盛大な演唱会，緑色蔬菜展示即売会，全国カーラリー等のイベントが開催され，重慶市の新聞をはじめ, 全国数十のテレビ局(中央テレビを含む), インターネット等のメディアを駆使して大々的に宣伝する．潼南県は一躍中国西部の農業観光名所となった．2009 年に潼南は「中国の最も美しい油菜の花の海」と評され，2010 年に「重慶の十大春季観光目的地」の 1 つと評された．無から有への観光地づくりの成功事例として，重慶だけではなく，徐々に全国的にも知られるようになってきた．

おわりに

「天は自ら助くる者を助く（Heaven＝God helps those who help themselves)」という．中国の古典哲学も「窮すれば変じ，変ずれば通ず」という．困窮であれば，自らが問題解決の方策を見いだし，自助努力していけば，必ず何らかの光が見えてくる．従来，潼南県は貧困脱出のため政府の援助を強く求めてきたが，大きな支援は得られなかった．農村観光開発の呼びかけや西部大開発の号令を受け，潼南県はようやく自県における経済発展では，工業を追求するよりまず農業の長所を活かすべきだと悟り，発展戦略を調整し，観光資源――主に農業観光資源を活用し，先進地域に追いつき・追い越す努力を展開した．多彩な花経済を目指した観光地づくりに当たって,潼南県政府は大きな役割を果たしながら,自らの役割を「誘導・引導」に限定し，具体的な運営・管理はプロの企業に任せ，民衆の参与を要請してきた.「政府主導・企業運営・群衆参与」という組織的運営を作った．言い換えれば，花経済を中心とする重慶市潼南県の観光立県戦略の実施は，上からの開発型でなく，企業・住民参加を通じて，貧困からの脱却に成功している事例である．実際，2000 年代半ば以降西部と東部の地域格差の縮小傾向が生じている．国家財政支援以外に，こうした地域格差の縮小の裏側では，西部経済発展過程において，政府の誘導的役割，経済基盤の構築及び地域経済の基盤強化のための企業・住民の積極的参加が見られる．つまり，政府・企業・住民の連携と自助努力により，小から大へ，無から有へ，経済発展と環境保全との両立できる観光地開発の成功を導いたのではないかと考える．

参考文献

于暁麗（2008）「現代の観光開発における持続可能性の追求－中国・大連のサスティナブル・ツーリズムへの潜在可能性－」岡山理科大学総合情報研究科　社会情報専攻　平成 19 年度（平成 20 年 2 月 20 日開催）修士論文発表会。

王文亮（2001）『中国観光業詳説』日本僑報社。

現地調査時に得られた菜の花祭り開催前の「執行計画」及び開催後の「仕事総括」等資料。

小林正典(2008)「シルクロードと中国の観光開発」『和光大学総合文化研究所年報(2008 年)』pp.006-017。

張広帥（2010）「郷村観光の定義とその重要性に関する一考察」【研究ノート】『北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院院生論集』pp.83-90。

張冬平・魯懐坤（2009）「中国における観光農業開発と特徴の分析（Analysis on leisure agriculture development and feature in China）」『河南農業大学学報』Vol.43 No.6 pp.677-680,696.（中国語）。

張紀潯・夏占友・張虹（2011）「北京市観光農業の発展現状と問題点－北京市昌平区の事例を中心に－」『城西大学経営紀要　第 7 号』pp.95-117。

展鳳彬（2008）「中国の新型観光農家楽－四川省・成都市を事例に－」『同志社政策科学研究 10（1)』pp.241-246。

潼南県国民経済及び社会発展第十一個五ヶ年（2006－2010）規画要綱，十二個五ヶ年（2011－2015）規画要綱（草案）http://wenku.baidu.com/view/83884bea6294dd88d0d26b58.html&
http://www.cqtn.cn/read.php?tid-61966.html（2011 年 6 月 10－8 月 24 日アクセス）。

「三色」観光　潼南の経済発展を助力する http://finance.stockstar.com/JL2009022000000687.shtml（2011 年 6 月 25 日アクセス日）。

中国国家観光局　http://www.cnta.jp/kankokyoku/（2011 年 6－9 月アクセス)。

中国観光業は「黄金の 10 年間」に突入 http://j.people.com.cn/94476/6863585.html（2011 年 6 月 30 日アクセス）。

中国，「旅行法」の制定発表へ http://j.people.com.cn/94475/7167851.html（2011 年 7 月 10 日アクセス）。

重慶潼南将弁首届紅高粱節 3 万畝"高粱海"迎遊客（BY: ChinaWave 2010-08-13）
http://www.hellonavi.com/news/middlenews.php?PHPSESSID=&id=228175(2011 年 5 月 28 日アクセス)。

全国工業農業観光モデル区域（2011 年 10 月 8 日アクセス）
http://www.zhejiang.gov.cn/zjforeign/japan/node232/node812/node820/index.html。

立教大学　桝谷研究室 http://masutani.biz/（2011 年 9 月 26 日アクセス）。

「地域活性化事例」における成功要因の分析視点
http://www.mlit.go.jp/common/000116475.pdf#search='（2011 年 6 月 11 日アクセス）。

中国の概況 2007「観光のテーマ」（2011 年 9 月 26 日アクセス）
http://japanese.china.org.cn/life/archive/china07/2007-12/29/content_9455068.htm。

潼南県委宣伝部「陳摶老祖」http://cq.people.com.cn/news/201132/20113210572.htm（2011 年 11 月 4 日アクセス）。